本誌 p104∼105 対応

「ルールはなぜあるの？」ついて考えよう

１ 主題設定の理由

　　社会生活を営む上でルール（法）やマナー（道徳）が存在し、必要であることは誰もが知っていることである。しかし、「自由」の意味を「勝手気ままなことをすること」とか「人に迷惑をかけなければ何をしてもいい」という様な解釈をしたり、権利を強く主張するばかりで、ルールやマナーを軽視したりする人もいる。

学校は小さな社会であり、集団生活の場である。誰もが安心して生活ができ、不利益を被らないために「決まり」が定められていることを理解する必要がある。一定のルールの中で個々の個性や特長を発揮することこそが「自由」の真の意味であることことを理解したうえで、自分自身の生活の状況を振り返るきっかけとなる指導の一助としてほしい。

また、最近は携帯・スマホ等を使用した、インターネット上の「掲示板」への書き込みによる誹謗中傷・いじめ・個人情報や他人の情報の公開といった情報化の影の部分に対応するため、発達の段階に応じて情報モラルを扱う指導も可能である。

つまり、自分自身の生活状況を振り返るとともに、最新の状況について理解を深めるのが本時のテーマである。多岐に渡る内容なので、本誌から取捨選択した形で項目を絞って実施することも可能だし、全ての項目を取り扱ってもよい。 担当者の裁量で項目を組み合わせて実施していただきたい。

２ 対象生徒 １∼３学年

３ 本時のねらい

（１）　イェリネックの言葉「法は最小限の道徳」の意味について理解させる。

（２）　誰もが安心して社会生活を営むためにルールやマナーが存在することを理解させる。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（３）　自分自身の生活状況を振り返りながら、ルールやマナーの必要性を理解させる。

４ 事前の準備

1. ホームルームを６班程度に編成し，各班で話し合いが進められるような役割分担をしておくと良い。
2. 本誌を参考にして、独自のチェックシートを作成しておくと良い。

【チェックシート例】

|  |
| --- |
| 　　『以下の質問に該当する場合、番号を○で囲んでください。』　　１　他人に迷惑をかけない限り、何でも自由に行動しても良い。　　２　服装や頭髪は、自由にしても良いと思う。　　３　誰も見ていなければ、「校内」や「街の中」などでゴミや空き缶等を捨てることがある。　　４　列車等の公の場所で、周りのことを気にせず、友人と大声で話すことがよくある。　　５　日常生活や学校生活で、日頃から「おはようございます。」等の挨拶をする必要はない。　　６　法は罰則があるので守るが、マナー（道徳）は罰則がないので守る必要はない。 |

５ 展開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項目 | 内容 | 留意事項 | 時間 |
| 導入 | ・本時のテーマを聞く | ・ 本時の授業について説明する。 ・チェックリストへの記入に際しての留意事項を説明　する。 　1 あまり深く考えすぎない 　2 希望や願望ではなく， ありのままの状況を　　　記入する。 | 10 分 |
| 展開 | ・ 自分の生活状況について振り返る。・　規範意識について理解する。 | * 自分の生活状況について挙手させる。
 | ５分 |
|  チェックシートからいくつか選び、班ごとにテーマを決める。 ＜班別討論＞ ・提示された問題点について、各 班内で討論し、 意見をまとめる。 ＜各班発表＞ ・各班の討論の状況と意見を発表 する。 ＜全体討論＞ ・各班の発表を踏まえ、クラス全対として の対応を考える。 | ・適宜机間巡視をし、各班の各班の進捗状況を把握 　する。　・発表者が話しやすいような雰囲気作りに努める。 ・指導者が適宜助言し、クラス全体としてどう対処を　すべきかを考えさせる。 | 30 分 |
| まとめ | ・本時の活動を通じて感じたことを事前に配付しておいたシートに記入する。 ・指導者の感想と今後に注意すべき点について確認する。 ・最後にシートを回収する。 | ・短時間で記入できるように書式に留意する。 | ５分 |
| 評 価 | ・テーマについて真剣に考えることができたか。 ・他者の意見を参考にして自分の生活状況を振り返り、ルールやマナーの必要性を理解できたか。・法もマナー（道徳）も社会に必要なルールであり、最小限のマナー（道徳）が法であるという関係が理解できたか。 |

